

## シャン奨学金で一部支援先が変更！どんなところ？

### ミャンマーのコロナ状況

ミンガラバー！ミャンマー事業プロジェクトマネージャーの柴田です。さとおやの皆様、いつもご支援いただきありがとうございます。

ミャンマーでは7月21日以降、順次開校が進められていましたが、その後の急激な感染拡大を受け、8月27日にはすべての基礎教育学校が再び休校に。9月下旬以降、現在も一日1,000人程度の新規感染者が報告されています。教育省は、国内の感染が収束するまではミャンマー全土の学校を再開しない方針です。当会のタンボジセンターの子ども、学校再開までは一時帰宅し、自宅で過ごしています。今年度は学校がほぼ止まっていたため、留年の可能性も噂されているそうです。

また、スリランカでも10月9日に西部のガンパハという県の製縫工場にて大規模クラスターが発生。感染拡大が止まらず、再び学校が閉鎖。11月23日より再開しましたが、各家庭の判断などで通学を控えている子どももいるというのが現状です。



今このタンボジセンターには、3名の子が毎日農業をしています。

### シャン奨学金の新支援先紹介！

シャン奨学金で支援しているパラヒタ（僧院の寮）ですが、今年度より一部支援先を変更することになりました！今回は、その新支援先である「マインピン

パラヒタ」についてご紹介します。マインピン地域は、当会が事業を行っている中でも、インフラ整備などをはじめ開発が一番遅れている地域です。当会の事務所があるタウンジーから車で1時間半程度の距離ですが、数年前までミャンマー国軍と少数民族軍の紛争がありました。当時は道にゲートがあり、その先は外国人が立ち入ることのできない場所でした。そのためNGO等の支援が入り出したのはごく最近。

避難しなければならなかった、いつ村が襲われるかわからないので定住できなかった等の理由で進学率が非常に悪く、学校の数も極端に少ない地域です。最終学歴も小学校までという子どもがほとんど…。そのような場所で、地域の進学率を上げるために奮闘している僧侶がいらっしゃいます。僧侶自身が運営費を賄い、寮を運営しているのです。高校も27村に1校のみしかなく、距離的にも通学が困難なため入寮は必須です。現在学校は閉校中ですが、寮には184人もの子どもたちが寮に残り、洋裁、竹細工、音楽などを学びながら、学校の再開を待っています。



### ★スリランカ文化紹介★

### スリランカの言語って何語？

スリランカは、シンハラ人（主に仏教徒）、タミル人（主にヒンドゥー教徒）、その他ムーア人（イスラム教徒）などの異なる

民族が住む多民族国家です。シンハラ語、タミル語、英語が公用語ですが、英語は両民族をつなぐ「連結語」として使用されています。子どもたちが学校で授業を受けるときは、シンハラ人にはシンハラ語、タミル人にはタミル語で行っています。イスラム教徒に対してはそのどちらかを選択させますが、ほとんどがタミル語を選択するようです。なお、地球市民の会が支援しているサンガミッタ女子高では、国語としてシンハラ語の授業が行われており、選択科目としてタミル語が受けられます。「ありがとう」を両言語にすると全然違う…！

シンハラ語：ස්තූතියි (ストウティー)

タミル語：நன்றி (ナンドリ)

電車や道路等の公共交通機関において、案内用の看板は3言語で表すことが義務づけられているそうです。面白いですね！



上：シンハラ語

中央：タミル語

下：英語

### 奨学金事業担当

### 武富（たけどみ）からのコメント

2020年ももう暮れに入りましたね。この時期、私はいつも海外の友人に向けてのグリーティングカードを作成して国際便で送るのですが、今年に至っては、書く前に郵便状況を調べています。コロナの影響もあり、国際郵便も一部引き受けが停止になっていたりとるので、送る際も気を抜けません…！幸い私が送ろうとしている対象国は送れるようです。遅延覚悟で今年も心を入れて贈ろうと思います。